

ヒューマン ライブラリー  
**Human Library**

りいぶる

本日、  
開館。

ヒューマンライブラリーとは、「人を貸し出す図書館」。語り手を「本」になぞらえ、図書館で本を読むように直接対話することでお互いに理解を深めるイベントです。自分らしい働き方をする人、障害とともに生きる人、不登校経験者…などが「本」となって、みなさんをお待ちしています。

ぜひ、生きている「本」との対話をお楽しみください！

会場：和歌山県男女共同参画センター“りいぶる” 会議室C  
(和歌山市手平2-1-2 和歌山ビッグ愛9階)

開館日：2020年**1月25日**(土)

開館時間：1回目 13:30～14:00

2回目 14:15～14:45

3回目 15:00～15:30



定員：1冊の「本」につき5人程度までとします(先着順)。1人3冊まで申込み可。

申込方法：電話もしくはメールにて

お名前、ご住所、連絡先、読みたい「本」と時間(裏面参照)をお伝えください。

一時保育：無料(1歳～小学2年生まで・定員あり・先着順)

一時保育は1月15日(水)まで要予約。

お問い合わせ・お申込み

和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 和歌山ビッグ愛9階

TEL：073-435-5245 FAX：073-435-5247

e-mail：libre@sirius.ocn.ne.jp

月曜・祝日を除く9～21時(日曜は17時30分閉館)

本を開くと、そこには誰かの足跡があった  
生きている本を、貸し出します。



スマホ

# <ヒューマンライブラリーりいびる ブックリスト>

2020. 1. 25

「作者名」、「本のタイトル」は「本」自身によるものです。

	作者名	本のタイトル	あらすじ
A	児童文学作家 たかだ ゆき子	バリアフリーと私	足が不自由な女の子が今まで生きてきて、日常生活で傷ついたり、辛かったり残念な気持ちになったり、そんな気持ちから学び得た優しさや思いやりの大切さを絵本に託す。頑張って生きていけば、その優しさを理解してくれ、助け守ってくれる人が現れる。自分を価値のある人間だと自信を持って生きて欲しい。思いやりと優しさが人の心を救う。沢山の方々とのお会い、ご縁を大切にどんどん前向きに突き進んでいくストーリー。
B	働くことに 情熱を 持った人	“働く” & “自分らしさ”の両立	本業では障がいのある人たちの仕事を支え、プライベートではボランティア活動で若者が働きやすい地域を目指して取り組む。そして自身では、仕事と家庭を両立するための働き方として起業を選び、もうすぐ3年。誰もがより良く、そして自分らしく働くことにこだわるようになったのは、幼少期と新入社員時の経験からであった。何を思い、何のためにその人らしく働くことを支え続けるのかを話したい。
C	母さんは 社長 (兼理事長)	幼稚園教諭が突然 製造業の社長に… そして社会起業家に	約20年前、幼稚園の先生だった私が、父の急逝により突然会社を「何とかします！」と継ぐことに。様々な困難を乗り越え、現在は製造業社長の傍ら障がい者就労支援を行うNPO法人を運営。 高齢者・障がい者・子供が互いを必要とし支え合えるコミュニティ作りを目標に、昨年には保育園も開園。会社経営に子育てに日々奮闘中の私のこれまでとこれからのお話です。
D	町谷 雅美	私の夫は ギャンブル依存症	私はごく普通の平凡な幸せな結婚をしたと思っていた。ところが結婚して1年を過ぎた頃、夫から衝撃の告白をされてしまう。「実は借金がある」と。ショックだった。早く返さないといけなそうと思い翌日さっさと返してしまっ。その時はギャンブル依存症の知識がまったく無かった。そこから、数年に1度忘れた頃に百万単位の借金が発覚し、その度に泣き喚き、激しく怒りをぶつけ自分の人生を恨んだ。そんな私が自助グループに繋がり助けられた経験をお話します。
E	ミャンマー 出身者	国境を越えて、 わたしが 大切にしたいこと	憧れの日本にやってきて4年。日本人の夫と出会い、現在子育てをしながら日本で生活しています。そんな私が国際結婚を通して感じたこと…。 ミャンマーでは、結婚は同じ民族同士に限られています。理由は世界でも少数民族である国の文化や言葉を大事にするためです。(皆さんはどう思われますか?) わたしは、国際結婚にもメリットはたくさんあると思います。 ミャンマーの文化や女性の生き方についてお話ししましょう。
F	元不登校の 社会人	不登校だった私が 楽しく生きられるよう になるまで	中学2年生の夏、私は学校に行くことができなくなりました。 どうして学校に行けないのか? 何が辛いのか? 不登校は後ろめたいことなのか? 楽しく生きるためにはどうすればよいのか? 不登校になった時の気持ち、そしてそこから社会復帰するまでの体験。不登校に対する考えをありのままお話しします。 今現在不登校に悩む当事者や関係者にとって参考になれば幸いです。

## <時間割>

	作者名	1回目 13:30~14:00	2回目 14:15~14:45	3回目 15:00~15:30
A	児童文学作家 たかだ ゆき子	○		○
B	働くことに情熱を持った人	○	○	
C	母さんは社長(兼理事長)		○	○
D	町谷 雅美	○		○
E	ミャンマー出身者	○	○	
F	元不登校の社会人		○	○

## <申込み時の注意点>

お申込みの際は、「1回目のAさん、2回目のBさん、3回目のCさんの本を希望します」とお伝えください。  
もちろん、1回だけの貸出もOKです! ご不明な点はお問い合わせください。